

|  |    |      |    |     |    |    |
|--|----|------|----|-----|----|----|
| ナシ無袋栽培における輪紋病の効果的防除法   |    |      |    |     |    |    |
| [要約] ナシ 無袋栽培における輪紋病の薬剤防除は、5月下旬から果面がコルク化するまで約10日間隔で行う必要があるが、 <u>ベフキノン水和剤</u> の3回散布は特に有効である。 |    |      |    |     |    |    |
| 長崎県果樹試験場・病害虫科  | 専門 | 作物病害 | 対象 | 果樹類 | 分類 | 指導 |
| 平成6年度長崎県果樹試験場業務報告  |    |      |    |     |    |    |

[背景・ねらい]

ナシ輪紋病は黒斑病や黒星病に次ぐ重要病害で、幸水に罹病性であり、無袋栽培の増加とともに収穫後市場や店頭で発病し問題となっている。そこで新しょう及び果実への感染時期である5月下旬から7月上中旬の薬剤防除とその効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ①本病の柄胞子飛散がピークを迎える前の5月下旬から6月上旬に1回目の薬剤散布を行い、果面がコルク化する7月上中旬まで約10日間隔で行うと、本病の発生を抑える。
- ②ベフキノン水和剤は対照薬剤のフジオキシラン水和剤より優れた防除効果を示し、ベルケート水和剤は対照薬剤と同等である。

[成果の活用面・留意点]

- ①本剤は使用回数が3回以内であるので、特に梅雨期はEBI剤とのローテーションを組む必要がある。
- ②生育初期（特に展葉期）の散布で、新葉に波打ち症状または褐色斑点を生じることがあるので使用しない。
- ③果実への感染は7月中下旬以降減少するが、傷口から感染すると急激に発病するので、台風や害虫の多発時にはこの時期にも薬剤散布が必要である。

[具体的データ]

表1 ナシ輪紋病に対する防除効果

| 供試薬剤      | 使用濃度<br>(倍) | 収穫果数<br>(果) | 収穫後の発病果数(果) |    |    |    |    |     | 発病<br>果率<br>(%) |
|-----------|-------------|-------------|-------------|----|----|----|----|-----|-----------------|
|           |             |             | 1日          | 3日 | 5日 | 7日 | 9日 | 11日 |                 |
| ベフキソ水和剤   | 1,000       | 113         | 3           | 2  | 0  | 2  | 0  | 1   | 7.1             |
| ベルコート水和剤  | 1,000       | 90          | 2           | 0  | 2  | 7  | 1  | 3   | 16.7            |
| フジオキシン水和剤 | 600         | 110         | 3           | 3  | 1  | 7  | 3  | 2   | 17.3            |
| 無散布       | —           | 118         | 27          | 3  | 2  | 19 | 7  | 4   | 52.5            |

注) 散布日: 6. 6、6. 16、6. 27、7. 20

[その他]

研究課題名: ナシ病害虫の防除

予算区分: 委託

研究期間: 平成6年度(昭和59年~)

研究担当者: 古賀敬一、大久保宣雄

既発表論文等: 平成6年度 長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点: 同時防除可能な他の病害の防除効果とEBI剤とのローテーションについて  
検討する必要がある。